

令和元年度 第1回 市原市環境審議会 議事録

- 1 日 時：令和2年1月29日（水） 午後2時00分～午後4時00分
- 2 場 所：市原市市民会館3階 大会議室
- 3 出席者
 - (1) 委 員（五十音順）
安藤委員、岡本委員、金丸委員、木村委員、鈴木委員、泉水委員、
田村委員、鶴岡委員、花見委員、萩原委員、星委員、堀田委員、
矢嶋委員
…計13人
（欠席）荒井委員、加藤委員、工藤委員、小林委員、佐藤委員、
古川委員、宮吉委員
…計7人
 - (2) 事務局
（環境部）
三原部長、佐久間次長
（環境部環境管理課）
田邊課長、石橋係長、平井副主査、大川主事
（環境部不法投棄対策・残土指導課）
牧野課長補佐
（環境部クリーン推進課）
堀江課長補佐、高橋係長、後藤係長
…計10人
- 4 傍聴者 1人
- 5 議 題：審議事項
 - (1) 市原市環境基本計画年次報告書（案）について【審議】
 - (2) 市原市地球温暖化対策地域推進計画（案）について【審議】
 - (3) 市原エコ・オフィスプラン実績報告について【審議】
- 6 内 容
司 会：それでは、これより、「令和元年度第1回市原市環境審議会」を開
会いたします。なお、本日、古川和義委員、荒井榮子委員、加藤
恵美子委員、佐藤進委員、宮吉誠委員、工藤智子委員、小林悦子
委員は都合により欠席との御連絡をいただいておりますが、13名
の委員の御出席をいただいております。総委員数20名の半数を超えて

おります。よって、市原市環境審議会規則第5条第2項の規定により、本日の会議は成立しておりますことを御報告いたします。初めに、環境部長の三原より御挨拶申し上げます。

部 長：～あいさつ（省略）～

司 会：ありがとうございました。
環境部長三原より市原市環境審議会の泉水会長へ、諮問書をお渡しいたします。

～諮問書を読み上げ、会長に諮問書を手交～

司 会：それでは泉水会長から御挨拶をいただければと存じます。よろしくをお願いします。

会 長：～あいさつ（省略）～

司 会：これより、本会の議事進行につきまして、市原市環境審議会規則第5条第1項の規定により、泉水会長に議長をお願いいたします。

議 長：それでは、審議に先立ち、まず、議事録署名人を指名いたします。今回は花見委員、田村委員をお願いします。

～両委員承諾～

議 長：ありがとうございます。また、本日、1名の傍聴希望者が外で待機してございます。本審議会は、市原市情報公開条例等に基づき、原則公開となっておりますので、事務局は傍聴者を入室させてください。

～傍聴者入室～

議 長：それでは、ただ今より議事に入ります。「市原市環境基本計画年次報告書（案）について」を議題といたします。それでは、早速ですが、事務局より説明をお願いいたします。

～事務局説明（省略）～

議 長：ありがとうございました。ただ今、事務局の方から、本件に関する御説明をいただきました。質疑等がありましたらお願いいたします。

田 村 委 員：36P のミッション 3 の件で少し質問がございます。「水質汚濁における環境基準の達成率」が思う程出なかったという原因として、高滝ダムの貯水池の達成率の件が記載されております。それに対しての取組を事業者の立入、水質改善監視体制とありますが、分かる範囲で良いのですが、原因が分かっている、こういう結果として書かれているという理解でよろしいでしょうか。

事 務 局：高滝ダム貯水池は閉鎖性水域ですので、千葉県内の亀山ダムや手賀沼、印旛沼なども同じ状況です。高滝ダムの場合は、流入する自然由来の土砂の影響が大きいのですが、畜産業からの影響も無視できないので、立入などをして、環境負荷を低減させるよう取り組んでいるところでございます。

田 村 委 員：ありがとうございます。想像はしていたのですが、そうすると上流側から入ってくるものに左右されるということで、上流で雨が降った後とか、結構降雨量が多いとか、そういう状況が続くと、水質が悪化するような要因が増えてしまっていることにもなると思いますので、監視をすると理解しました。

議 長：ありがとうございます。その他どなたかございませんでしょうか。

田 村 委 員：続けて申し訳ありません。21P の文化環境で今年の件ですが、地磁気逆転地層の件はおめでとうございます。皆様も一度は行かれたことあるかとは思いますが、かなり養老川自身が結構急峻な所で、あそこを環境保全すると言うと、文化環境的な歴史、文化財を大切に、環境面でも補っていかうという事だろうと思います。かなり大変なことだろうと思います。今回も、台風の後とか大雨が降った後で結構川が水で満たされているかとは思いますが、また、養老川自身が流路変更するとき地形を削ることを繰り返すので、そういう意味では中々難しいところに存在しているかとは思いますが、現地の見学路も私も何度か行っていますが、上の方はかなり整備されていますが、下に降りて行く所がかなり急峻です。ここを環境的にどう保

全していくのか、おそらく下に降りた時にその上流側のどちらかという、温泉地の排水だろうとは思いますが、その点の目配りをするという理解が、上流側の不適正処理箇所とかそういうのもあるかと思えます。そういった観点で、水質汚濁や生物相もそうだと思うのですが、そういったものを監視していくという事も含まれているという理解でよろしいでしょうか。

事務局：水質監視につきましては、養老川全般で行ってまいります。この歴史文化、チバニアンが正式名称になりましたので、保存につきましては、その担当部署の方で、観光客の方などが見やすいような施設整備、ビジターセンターというのが出来ていると思うのですが、今後、駐車場整備等するというお話を伺っています。また直接、本日の基本計画とは関係ありませんが、3月20日から5月17日まで市原アートミックスが開催されるのですが、その中でこちらのチバニアンもルートに入れてバス等も運行するというお話を伺っております。

田村委員：ありがとうございます。改めて、地磁気の逆転層だけではなくて、周辺の環境を学べるツアーも出来れば良いのではと思います。

堀田委員：各項目の評価と次年度に向けての取組などを説明していただきましたが、これは2018年度の報告書という事ですので、私は心配しているのが2019年度、来年の報告書がどうなるのかという事です。台風等災害というのは、こういった目標クリアに物凄く影響を及ぼします。例えば、京都議定書でもCO₂の削減について、東日本大震災があったために、2012年に目標クリア出来なかったという項目があるものですから、そういう意味では災害というものは、とても目標に対して、後ろ向きに作用します。2019年度については、今年にかけてまとめると思いますが、今年の災害を考慮したまとめ方みたいなもの、是非十分検討されたら良いと思います。

事務局：環境部の方でも、災害廃棄物の方がまだ多く出ている状況です。これを一般廃棄物の量として計上するのか、災害廃棄物として別建てで計上する形になるのかという事だろうと思います。

議 長：ありがとうございます。その他ございませんでしょうか。ないようでしたら、審議として、何か御意見等改めて委員の方にお伺いします。

鈴木委員：年次報告書（案）は全体として、よくまとまっているのではないかと思います。その際、一番最後のページに COOLCHOICE とか SDGs について、注釈がついています。しかし、他にも前のページに ESD というのも出ているし、一般市民の方に評価も含め御理解いただく訳だから、こういった同じような注釈が必要ではないかと思います。もう少し丁寧に作りこめばという気がしております。

事務局：44、45P の部分だとは思いますが、ESD、COOLBIZ などの単語もありますので、そういった市民の方に馴染みの薄い言葉は注意書きのような形で対応させていただきたいと思います。

議 長：よろしく願いいたします。他にないでしょうか。ないようでしたら、本件に関する審議を終結したいと思います。それでは、続いて次の審議に移ります。「市原市地球温暖化対策地域推進計画（案）について」です。それでは、事務局より説明をお願いいたします。

～事務局説明(省略)～

議 長：ありがとうございました。ただ今、事務局の方から、本件に関する御説明をいただきました。質疑等がありましたらお願いいたします。

鈴木委員：いくつかあるのですが、7P 以降のメタンなどの算定方法については、これは、今までも見せていただいたことはありましたでしょうか。

事務局：計画を策定する際に、御説明させていただいております。

鈴木委員：ありがとうございました。そこで、そのメタンの方ですが、メタンの場合、関東地方というのは南関東ガス田と言う、大変メタンガスが含まれているかん水が膨大に南関東にあって、それを地盤沈下にならないように押さえながら、ヨード、メタンを取っているとい

う事で、取るだけではなくて、自噴していて、これは一宮とか睦沢に行くとそのがよく分かります。塩ビ管などでそれを観測する所があつてちょっと火をつけてやるとパッと爆発するくらい出ます。大多喜とかいすみにももちろん出ています。メタンの場合は、南関東ガス田の方から自然に漏れ出ている量が膨大にあるのではと推測されます。自然発生しているメタンガスは、こういった算定には考慮されていないのでしょうか。

事務局：自然に自噴しているガスの扱いについてですが、当計画ではその算定を考慮しておりません。自噴量をどういう風に把握するのかということもあります。まず市域から採取される排出されるメタンの量といたしましては、こちらの方で示させて頂いています燃料の燃焼から廃棄物の方から出てくるようなもののみで計算をさせていただいております。

鈴木委員：よく分かりますが、自然に出てくるメタンの量は、推定出来ないというのはおかしいので、おそらく推定する方法はあると思います。市原市内の中に自噴の地域というのは、あるでしょうか。

事務局：市原市内ではメタンガスが自噴しているという話は聞いておりません。

鈴木委員：分かりました。メタンが出てくると土壌中の空気を追い出すものですから、樹木が枯れて、その関係でメタンが引っ張り出されることがあります。枯れた原因は何だということで、いすみや大多喜などでよくありますので、お聞きしました。

それと、メタンと全然話が違いますけども、15Pの樹木破碎機、これは先ほど基本計画の年次報告の中にも出てきて、その大変環境に大きく貢献するっていう機械ではないが、その剪定した樹木などを燃やしてしまえば、それを燃やすための燃料を使う訳ですから、破碎してマルチにしたりすれば、自然に還元していく、自然にまた戻っていくという事で大変良いと思います。ここで最後に「当該機は廃番商品であることから部品の供給がなくなり今後の運用に支障をきたすことが懸念されます」とありますが、予算が無いことはよく分かるが、廃番品でどうのこうのと愚痴を言っているように感じます。ここは機械を更新すると記載したらどうでしょうか。

事務局：環境基本計画の方でも、同じ評価をしていると思いますので、表現は見直しいたします。

安藤委員：5Pの産業部門の数字なのですが、1,000万t超えるという状況にやっぱり産業部門が入ると家庭とか業務、運輸部門は万tオーダーなのに二桁多いような状況になるので、産業の影響が、こういう統計の取り方をすると大き過ぎてしまうから、分けないと市民向けの資料としてどうなのかなと毎年思っていますので、何かされた方がいいのかなと思います。産業部門は随分下がっていると御説明があったのですが、では家庭部門はどうなのかっていう部分が非常に薄れて見えてしまいます。産業部門に関しては、6Pの表を見ると下がっているようにも見えてしまうので、それも全部そういう意味で言うと、家庭、業務、運輸、全部合わせた分よりもマイナスされるような印象を持ってしまうから、こういう部分はもうちょっと分けて統計取られる方がいいのではというのが一点です。もう一つが18Pの指標の状況に「JR3駅京成ちはら台駅バスの便数」っていうのがあるのですが、これはバスの便数が上がるのが望ましいというようなことなのですか。バスが運行されるという事は、CO₂排出量増えてしまうので、こういう指標の場合においては、どれだけ減らすかという視点でいくと、むしろバスの便数は減らした方が望ましいのではと思うのですが、その辺はどういうふうに考えられているのかというのが2点目です。3点目が14Pの「市内産出の再生可能エネルギー量で賄われる市内世帯数」の計算方法は例えばソーラー設備を設置している家の数とか、そういうような形で計算されているのでしょうか。他の自治体だと、例えば成田とか香取とかあの辺は自治体でソーラー発電を持っていますので、例えば、そういう発電があって、市として、再エネをどんどん作る計画があるとかそういった部分でオフセットしていかうという計画があるとか、そういった所は書かれないのかというのはちょっと思います。質問としては、14Pのこの世帯数というのは、ソーラーの設置件数なのでしょうかという所です。3点お願いします。

事務局：まず5Pの表記につきましては、全体の減らした数を下の排出量の推移というグラフで一括してまとめさせて頂いておりますので、これは排出量の多い所の要因が大きいだろうということでごしま

す。表現の方法と致しましては、家庭、業務、運輸、それぞれ減少しておりますので、そこを上手く切り分けて表現出来るかどうかを、先生の仰ることと理解しましたので検討させていただければと思います。続きまして、18Pでございます。バスの便数が増えれば二酸化炭素が増えるし、便数が減れば二酸化炭素が減ることなのですが、一応目標としては、維持を目指しているものでございます。バスが運行されない事によって自家用車の運用がされるということもあるというように考えております。単純に二酸化炭素の排出量だけではなくて、やはりその地域の皆様の足を確保して住みよいまちづくりという所もございまして、この指標については維持をしたいと考えているところです。戻りまして14Pの「市内産出の再生可能エネルギー量で賄われる市内の世帯数」の計算方法でございますが、まずデータは、資源エネルギー庁が公表している再生可能エネルギー量があります。これは設備容量が出ています。どのくらいの大きさの太陽光または水力発電、バイオマス発電があるかと、市町村毎に公表しておりますので、そのデータを活用しております。太陽光発電につきましては、日照時間等の問題から一定の係数を掛け合わせまして、年間で発生する電力量の計算をして、一世帯当たり一か月大体300 kW程度だったと記憶しておりますが、その一世帯で一か月使用するであろう電力量で割ったものでございます。また、お話いただきましたオフセットするような取組ということでございますが、今のところ、具体的にオフセットするというようなことはございませんが、私どもの方で、太陽光発電またはエネファーム、太陽熱利用エネルギーの補助金を交付しております。今回は昨年度の報告ではございますが、今年度は大変ご好評をいただきまして、件数の方もほとんど残っていないというような状況で推移しておる所でございます。

安藤委員：エネファームの数は加えないのでしょうか。

事務局：エネファームは、天然ガスを利用した高効率の省エネ機器ということになりますので、確かにお湯も電気も作っているのですが、再生可能エネルギーという点では少しちょっと外れてしまいますので、算定に入れておりません。

議長：はい。その他どなたかございませんでしょうか。

金丸委員：家庭の主婦として、素朴な疑問なのですが、16、17Pの「ライフスタイル・ビジネススタイルの変革」。まず17Pの上の方に新聞、雑誌、段ボールなどの紙類を中心に回収量が減少していると書いてあります。私も普通に生活しております、この頃新聞はとらなくて情報はパソコンで見るようになったり、家庭だけでなく、特に市役所とか色んな会社の方でも紙をあまり使わないで、ペーパーレス・電子化ということで、紙の利用がすごく減っていると思うのです。私も新聞を回収に全然出しておりません。この16Pの再生利用率の所、基準値19.2%、実績値18.1%で、あんまり回収に出している人が少なくなっているのではないかなと思います。ということは紙を無駄にしないという、エコな活動が浸透していて、減ったのは別に良いのではと思ったのですが、どうなのでしょう。

事務局：新聞を取らなくなった家庭が本当に多くなったのは私どもも伺っております。この再生利用率のことですが、実は私どもで回収をさせて頂いている率と言い直した方がよろしいのかと思います。私どもで回収させて頂いている雑紙をはじめ、色々分別をしていただいて、この再生利用率を高めようということで取り組んでいるのですが、私たちの回収ルートに乗らないものが多いのです。例えばペットボトルになりますが、店頭回収をしている大手スーパーマーケットがあります。私たちは指標の数値を上げたいと思っておりますが、実際は少し下がっているという背景にはそのような状況があるものと分析しているところでございます。

萩原委員：再生利用のお話なのですが、補足させていただきます。これについては、私も事業者張本人でございます、回収をしております。その中の回収の頻度、率、量を含めると、実際に新聞等が減っているのは実感しております。ただ、それ以外の雑紙等については、やはり可燃ごみの中にかなりまだ入っているというのが現状だと思います。再生可能な方法とすれば、紙類等につきましては、まだ余地はあると思います。これは回収業者の問題ではなくて、住民の方のモラルの問題ですね。特に最近外国の方も非常に多くなってきて、そういうエリアについては、非常に廃棄物の回収、分別がよくないということについては、行政または町会の方達と一緒に、教育を徹底していければと思っております。

議 長：ありがとうございました。その他、いかがでしょうか。審議も兼ねますので、御発言の方お願いいたします。

堀田委員：14Pに「指標の状況（実績値）」という表がございます。これは市民の人に分かりやすい指標、あるいは見やすい指標ということであるならば、世帯数とか件とか㎡とか単位が全て違っていています。目標値もそういう単位になっていますから、横並びで見ていくには良いのですが、例えば2Pのところに地球温暖化係数というのがあります。そういうようにすれば、CO₂が1ならばメタンは25だとかそういうように、量の問題を、次元を変えた方が分かりやすくなるのではないのでしょうか。具体的にどうするのかというアイデアはないのですが、この表はこれで良いと思いますので、もう一つ枠を作って何が置き換えて増減が分かるようにすると、この次元の単位で言うならば、CO₂が減ったという方が分かりやすいかなと思いました。

事務局：本計画の最大の目標というのが、11%削減ということですので、全てを二酸化炭素に換算して、それに対してどれほど削減できたかをお示ししております。個々にその表現ができるかについては、今後の課題として研究させていただきます。

議 長：御検討の方をお願いいたします。その他ありませんでしょうか

花見委員：19Pになりますが、今回の台風等で街路樹や公園の木が倒れて危ないという現場を目にしています。緑を増やすという意味はすごく必要なものと思うのですが、今回の台風で倒れた木等を、今後植え替え等するのでしょうか。こうした街路樹とか公園の木というのは、防災上は非常に危険なものになる可能性があると思いますので、その辺りは、どのようにお考えになっているのかなと思います。

事務局：街路樹や公園の木の植え替え予定等につきまして、災害の実情として、委員がおっしゃられたとおり、公園とかの樹木処分で、担当部署の方も手いっぱい状況です。今後、植え替えるかどうかはまだ処分が終わってないので、方向性については決まっていない状況だと思います。

議 長：その他御意見等ございませんでしょうか。では、他に無いようです
ので、審議を一旦終結したいと思います。次の審議に入る前に、
5分間の休憩を挟みたいと思いますので、委員の皆様は時間まで
にお戻りいただきたいと思います。

～休憩～

議 長：それでは、続いて次の審議に移ります。「市原市エコ・オフィスプ
ラン実績報告について」と「市原エコ・アクションプラン取組状況
について」です。それでは、事務局より説明をお願いいたします。

～事務局説明(省略)～

議 長：ありがとうございました。ただ今、事務局の方から、本件に関す
る御説明をいただきました。質疑等がありましたらお願いいたし
ます。私の方から質問よろしいでしょうか。福増クリーンセンタ
ーへ行きますと、山のように災害時の瓦礫が積まれています。主
に木でしょうね、あれはどうするのでしょうか。燃やすとなると
やっぱり相当の量の排出があるのではないのでしょうか。この目標
値が去年の分っていうのは、達成出来ないのではないのでしょうか。

事 務 局：木材につきましては、成長する過程で二酸化炭素を吸収しており
ますので、カーボンニュートラルという考え方でCO₂の排出量
が増えないと考えております。積まれているのは、木材がほとんど
だと思います。ただ、倒壊した家屋などを集積していますので、色々
なごみが含まれておりますので、その処理については、破碎して燃
やすという事になりますと、木材以外の場合CO₂排出量が多くな
る可能性は出てくるとは思います。

星 委 員：3Rの件で、市原市が特に力を入れているのは何でしょうか。

事 務 局：市原市環境基本計画の中でも、3Rの件は出てきたと思いますが、
再資源化の話が多く出てきたと思いますのでリサイクル、今はこち
らの方を力を入れているのかなと思います。後は食品ロス等も取り組

んでいますので、そちらでも、ごみを出さないという観点での取組をしています。

星 委 員：オリパラに対して、今エコを利用して洗剤等の容器プラスチックを集めまして、表彰台を作ろうではないかという動きがありますが、そういったことは市原市でも何か入っておりますでしょうか。

事 務 局：市といたしましても、オリパラに対する準備室がありますが、そちらの方からお話は伺っておりません。昨年度「メダルを作ろうプロジェクト」は取り組みましたが、表彰台については今初めて聞いた次第です。

星 委 員：洗剤の容器ってカラフルでとても綺麗なのですが、非常に処理に困っていると思います。そういったことが話として出ているようでしたら、特徴のない市原市ですから、何か目立って、良いことをやろうというような事があればいいです。形式的に環境部門に対して全てが整っていて素晴らしい計画案で、素晴らしい実施なのです。しかし、何かチバニアンにしても、アートミックスにしても今ひとつ全国的に響かないというか、せつかく良いことをなさっているのですから、もっと何かポイントを一つでもつかんで、市原市はこんなに頑張っているのですから、私は素晴らしいと思うのです。その素晴らしいことを、特徴みたいなものがあるとすごく嬉しく思います。

事 務 局：市原市もシティプロモーション推進課という課を立ち上げまして、市民の皆様「伝えるから伝わる広報」という事で、アートミックス、チバニアン諸々の事を、市民に伝わりやすくするような形で広報しています。市内に移住してくる方たちも増やしていこうという事で、市外や県外に対しても発信しております。まだまだ足りない部分はあるかと思いますが、シティプロモーション等で頑張っていこうと思います。

星 委 員：先ほど堀田先生のおっしゃった内容がすごく良かったものですから感動しました。今回のような災害は予測が出来ないものですから、これから本当に大変だと思います。それを予知したものとして、家庭でもよろしいですから、やはり考えておかないと、これからどん

どん地球が変わってきます。堀田先生の考え方というのがすごく素晴らしいなと思いましたので、賛同します。

堀田委員：現在、目標が立っていますね。だけどここの温暖化に伴う災害というのは、多分毎年増えていって減ることはないのではないかと思います。そうなった時の目標の定め方。目標は右肩上がりで行くのだと思いますが、そういう意味でこの災害というものをどう考慮していくかという事で、17年度から来て2年目ですので、何か新しい評価方法みたいなものが、市原流の評価方法みたいなものが、災害をきっかけにできるといいかなという想いで発言させていただきました。

萩原委員：エコ・アクションプランの方で、公用車の件ですが、エコドライブうんぬんということが書いてあり、例えば公用車も電気自動車やハイブリッド、それからは車だけではなくて、わずかな移動であれば電動バイクであるとか、そういったものというのは、今後考えていращやるのでしょうか。

事務局：公用車の部門でございますが、エコ・アクションプランでは燃費の向上について、公用車を管理する部署にお願いをしております。また、途中経過でございますが、大量に保有している総務課が、私どものこのエコ・アクションプランにより今後購入する公用車については、低公害車をはじめ、燃費性能などを重視した仕様にしたと聞いております。古い公用車がまだ走っておりますので、それを更新する際に電気自動車、PHEV含めて、検討の俎上に上がってくるものと思います。また、来年度予算をこれから御審議いただくところでございますので、もし走っていたら、努力が実ったと思っただければと思います。

安藤委員：堀田先生が色々良いこと言われていて、市原流という事も言われておりました。例えば資料見ると、19.4%削減とありますが、これは一生懸命、紙・ゴミ・電気で達成しようとする、結局いつ行っても暗いようなオフィスになってしまったり、暑いのにエアコン切るということになってしまったり、寒くてもエアコンをつけないとか、設定温度が30℃という話になってしまうのかなと思います。今CO₂に値段が付いている時代で、取引市場もあるという状況で

すから、削減した量についてきちんと、金銭的な評価というのをつける。そういうシステムを、例えば市原市内に導入していったら、具体的にコピー一枚数何枚減らしたかではなく、いくら削減することが出来ているという事がしっかり見えてきますので、そういう会計に沿って、例えば公用車を電気自動車化していく。例えば、公用車を今新しいものに変えていきますと話がありましたが、必ず予算という部分が来ますから、その時の予算的根拠を環境面に求めていくというスタイルを、市原市流に作っていくというのですね。CO₂に値段をつけていく外部経済の内部化ともよく言いますが、そういうシステムを市原市流なりに作っていくというのが望ましいのではないかなという気がします。これは意見でございます。

議 長：はい、ありがとうございました。事務局何かございますか。

事 務 局：CO₂に対して価格がついているという事に対して、金額に換算をするという視点につきましては、今後の取組に活かしてまいりたいと思います。また、二酸化炭素の排出係数の低い電力を購入するというのも大事だと認識しております。これについては、関係部局と引き続き調整して、できるだけ二酸化炭素の排出量の少ない電気を、少しお金をかけても買えればいいのではないかと考えています。

田 村 委 員：ISO 絡みの時も、両先生がおっしゃったように、数値化するのなかなか難しいなと思っています。結局やりすぎて、それ以上削減出来ないという事も絶対出てきます。先ほど言った価値に換えるというのが非常に良い案だなと思っています。個人の意見なのですが、公用車をハイブリッドに換えるとか電気に換えると言うお話でしたが、御存じだと思うのですが、今回の台風で、低地に住んでいる方で、水深、水没すると、今までのガソリン車だと多分そのまま使えるのですが、ハイブリッド車は床面にあるので、浸水で全損になります。そうすると全部廃棄になります。廃棄になるとこれはもう使用出来ないという事で、余計にかかります。そういう面があるのですが、そういったことも考慮して、低地にあるような事務所とかは、JR 東日本もこれでやられていましたから、そういった点も考慮して、その辺は多分環境部が気にすることなのかどうかは分かりませんが、やはり全体的に考えていただかないと、せっかくエコな公用車にしてもすぐにダメになり、結局廃棄物になってしまいます

ので、その点は配慮しつつ、さっき言ったあまり無理な目標は立てない方がいいのかなと私は思います。先ほどのエアコンの使用量も、市の職員の皆さんの就業時間も関係してくるのかなと思います。この辺も取組の一つということで意見です。よろしく願いいたします。

事務局：エアコンというキーワードがありましたけれど、御存じのとおり、エアコンを小中学校全教室に付けましたので、その影響が来年度以降どういう形で出るのかなというのは注視していきたいと考えています。

鈴木委員：以前の審議会で、安藤先生が空調について、窓ガラスにフィルムを貼ることによって熱効率は全然違うということをおっしゃっていて、そういうことはあるのかと。そうであれば、特別にそういうことをしなくても得策かなとも思いました。

議長：ありがとうございます。その他ないようでしたら、貴重な御意見も色々いただきまして、審議も十分になされたと思いますけれども、ないようでしたら、本件の審議を終結させていただきまします。それではこれまで御審議いただいた3件の諮問内容につきましては、計画に係る報告ということでありますため、諮問に対する答申と致しましては、ここで御審議いただいた貴重な御意見、その内容を私の方で取りまとめて作成したいと考えますが、よろしいでしょうか。

～委員承諾～

議長：ありがとうございます。それでは、私の方で答申書を作成することといたします。以上をもちまして、本日の議事を終了いたします。傍聴者の方をお願いいたします。議事が終了いたしましたので、御退室いただきたいと思います。

皆様の御協力によりまして、円滑に進行することができました。ありがとうございます。それでは、事務局に進行をお返しします。

司会：泉水会長、ありがとうございました。続きまして事務連絡でございますが、議事録につきましては、作成後、議事録署名人に指名

されました委員の方に御確認していただきたいと存じます。お手
数をおかけいたしますが、よろしく願いいたします。
これをもちまして、本日の審議会を終了いたします。委員の皆様、
本日は長時間にわたり御審議いただき、誠にありがとうございました。

以上